



Sailing Ahead

2026 年 6 月

北半球では、夏季休暇が近づく中、休暇に入る前に少しお時間を割いていただき、PIANC コミュニティ全体の最新ニュースをご一読ください。

今号では、今後の開催予定イベント情報を紹介しています。参加登録をお忘れなく！一方、PIANC 本部には、「PIANC Americas 2026」が延期になるとの通知が入りました。本イベントの変更後の日程に関する新たな情報は、後日ご案内します。

また、各国部会や地域支部からのニュース、各 WG や委員会(Com)からの最新情報、そして PIANC の最新刊行物についての情報もご紹介いたします。

WG 活動への参加をご希望の方は、新たに設置される 3 つの WG の委員募集案内もご確認ください。

幾つかのプラチナパートナーや姉妹機関からのニュースも掲載しています。

最後に、先日逝去された Reinhard Pfliegl(ラインハルト プフリーグル)氏に哀悼の意を表します。当協会への氏の献身と多大なる貢献に対する深い感謝とともに、その功績を偲びます。

本号をお楽しみいただければ幸いです。これからの休暇を控えている皆さまには、素晴らしくそしてリラックスした夏をお過ごしいただけますようお願い申し上げます！

今後の PIANC イベントにご参加ください！

PIANC APAC* 2026

豪・ブリスベン

2026 年 8 月 25 日 - 27 日

NordPIANC 2026

エストニア・タリン

2026 年 9 月 9 日 - 11 日

*PIANC APAC: PIANC Asia Pacific Conference



[登録はこちら！](#)

[登録はこちら！](#)

[会議ウェブサイトはこちら！](#)

[会議ウェブサイトはこちら！](#)

PIANC COPEDEC** XI

インド・チェンナイ

2027年2月21日 – 26日

** COPEDEC: Conference on Coastal and Port Engineering in Developing Countries(開発途上国における海岸・港湾工学国際会議)



PIANC-Japan 事務局(注)
←左の画像をクリックすると
COPEDEC XI のプロモーションビデオ
を視聴できます

[会議ウェブサイトはこちら！](#)

PIANC 各賞への応募はこちら

PIANC デ・パエペ-ウィレムス賞 2027 (DE PAEPE-WILLEMS AWARD(DPWA) 2027)

PIANC De Paepe-Willems Award

The PIANC De Paepe-Willems Award (DPWA) is a prestigious international prize encouraging **Young Professionals** to submit original technical papers in the field of waterborne transport infrastructure.

Why Apply?

- Gain **international recognition** for your technical paper
- Introduce yourself to an **international network of experts** in your industry
- Win a **great cash prize and free PIANC membership**

➢ 1st Prize: € 4,000 + 3-year free PIANC membership + travel & 3-night hotel stay to present at the PIANC Annual General Assembly (AGA)

➢ 2nd Prize: € 2,000 + 1-year free PIANC membership

➢ 3rd Prize: € 1,000 + 1-year free PIANC membership

Who? All Young Professionals who have not reached the age of 40 before 31 December of the year in which the abstract has been submitted.

How? Visit the PIANC website to learn more and submit your project for review: <https://bit.ly/4IFHxGF>

🤖 応募のメリット

- ✓ 技術論文の国際的な評価の獲得
- ✓ 当該分野の専門家の国際的ネットワークへの参画・自己アピール
- ✓ 多額の賞金と PIANC 無料会員権の獲得

過去の受賞者の声をお読み下さい！

[these testimonials](#)

※PIANC-Japan 事務局(注)参考資料以下のとおり

👉 [DPWA 賞 2027 応募要領&審査基準 仮訳&英文版](#)

👉 [DPWA 受賞論文一覧 2014 年-2026 年](#)

PIANC 自然との協働・共生賞 2028 (PIANC WORKING WITH NATURE AWARD 2028)

Working with Nature Award 2028

This international award celebrates outstanding waterborne transport infrastructure projects that demonstrate a proactive, integrated approach to working with natural processes — delivering benefits for both navigation infrastructure and the environment.

Why Apply?

- Gain **international recognition** for your innovative, eco-friendly approach to waterborne transport infrastructure
- Showcase your commitment to sustainability**
- Inspire others** through your example

In case your project receives a Certificate of Recognition, it will be in the running for the PIANC Working with Nature Award during the PIANC World Congress in 2028.

Any completed or ongoing navigation infrastructure project that embodies the Working with Nature philosophy is eligible for consideration.

Who? Visit the PIANC website to learn more and submit your project for review: bit.ly/41DLVu

🤖 応募のメリット

- ✓ 水上交通インフラにおける革新的かつエコフレンドリーなアプローチへの国際的な評価の獲得
- ✓ 持続可能な取組みのアピールにつながる
- ✓ 応募プロジェクトを先例とする他プロジェクトの範となる

応募プロジェクトが認定証(Certificate of Recognition)を獲得している場合は、2028 年 PIANC 世界航路会議(PIANC World Congress)において、本賞の候補となります。

※PIANC-Japan 事務局(注) 参考資料以下のとおり
応募等に関連する本部ウェブサイト(一部)の「仮訳」[10 頁参照](#)

応募資格

アブストラクト提出(応募)の年の 12 月 31 日時点で 40 歳未満の全ての若手技術者 (YP)

応募方法

過去の受賞者(論文)に関する情報の確認、及び論文の応募申請(提出)については、[PIANC Web サイト](#)をご参照ください。

応募資格

自然との共生・協働(WwN: Working with Nature)の理念を具現化する水上交通インフラ・プロジェクトであれば、完了／継続案件にかかわらず応募の資格があります

応募方法

過去の受賞プロジェクトに関する情報の確認、及びプロジェクトの応募申請(提出)については、[PIANC Web サイト](#)をご参照ください。

PIANC 国際協力委員会(CoCom)からのニュース

アフリカにおける PIANC のプレゼンス強化を図るためのウェビナー企画

アフリカ大陸全域における PIANC プロモーションと会員組織拡大のための「アフリカ・イニシアティブ」の一環として、国際協力委員会(CoCom)は若手技術者委員会(YP-Com)と連携し、最近の WG 報告書に基づく一連のウェビナーを成功裏に開催しました。これらのウェビナーでは、各 WG 議長による発表が行われ、アフリカ地域の専門家が参加したパネルディスカッションで締めくくられました。

この取り組みは、海外の幅広い聴衆にアプローチするもので、PIANC 活動や技術的・専門的知見への意識を高める上で、非常に大きな成功を収めました。また、5 月開催の直近のウェビナーの中で、最近公開された PIANC のコーポレートビデオも紹介され、参加聴衆からも非常に好評でした。

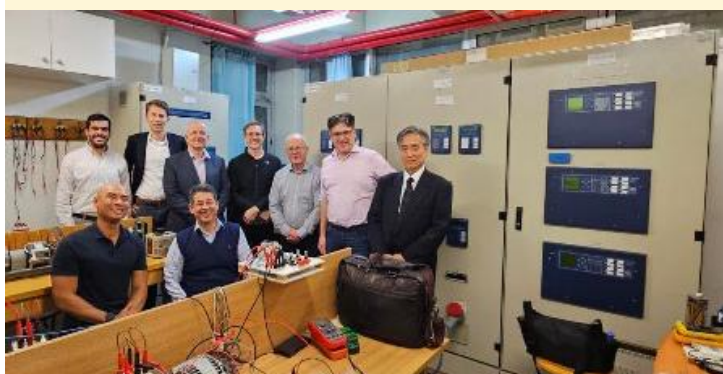
[追加情報はこちら・・・](#)

[追加情報の仮訳は 11 頁～12 頁参照](#)

[Mohammadreza Allahyar](#)

CoCom 共同委員長

PIANC WG からのニュース



[PIANC MarCom WG 248 -船舶への陸上給電ガイドライン\(Guidelines for Onshore Power Supply \(OPS\) for Ships\) – 最近の進捗情報](#)

上記の補足記事の「仮訳」[13 頁参照](#)

←写真の右端、白石 WG 248 日本委員

PIANC コミュニティからのニュース

各国部会, 各国支部からの実施済または今後予定される活動を共有するニュース

PIANC 中国部会からのニュース



PIANC 本部長及び事務総長の 中国訪問の報告

※上記の補足記事は 23 頁あるため, PIANC-Japan
事務局の要約版の「仮訳」 [14 頁～17 頁参照](#)

PIANC 日本部会からのニュース



PIANC Japan 第 54 回総会, 第 58 回 理事会及び PIANC WG(WG164, WG213) 活動報告会の開催

※上記の補足記事の「仮訳」 [18 頁～19 頁参照](#)

PIANC ポルトガル部会からのニュース



PIANC 若手技術者委(YP-Com)ポルトガル 第 5 回ウェビナー開催

※上記の補足記事の「仮訳」 [20 頁～21 頁参照](#)

PIANC 英国部会からのニュース



PIANC 英国委員会会合及び HR Wallingford 社技術視察

※上記の補足記事の「仮訳」 [22 頁参照](#)

PIANC 資格会員(QM)メキシコからのニュース



AMIP 創立 60 周年：将来を見据えた過去の振り返り メキシコ の港湾・海上・沿岸工学コミュニティが PIANC を通じて国際協力を 強化

※上記の補足記事は 5 頁あるため, PIANC-Japan 事務局の要約版の
「仮訳」 [23 頁参照](#)

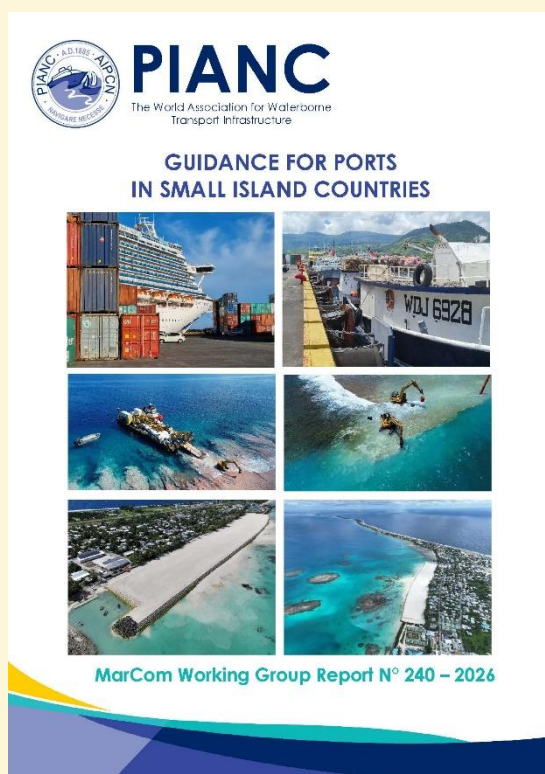
出版物

発刊中

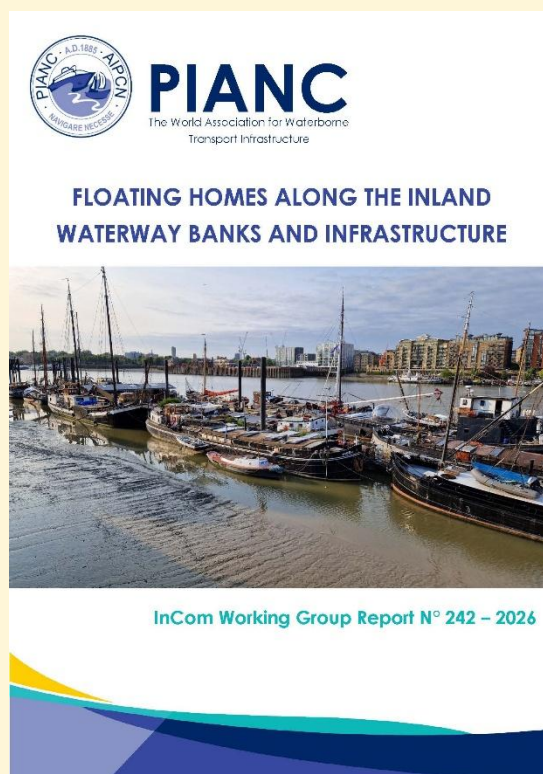
次の出版物が 2026 年 6 月に発刊されました。

※本部プレスリリースのダウンロードは、下記の報告書の表紙をクリックしてください。

- PIANC WG 240(海港委): 小規模島嶼国の港湾のガイダンス(Guidance for ports in small island Countries)
- PIANC WG 242(内陸水路委): 内陸水路護岸・インフラ沿いの浮体式住居(Floating Homes along the Inland Waterway Banks and Infrastructure)



WG 240 報告書の刊行時の本部プレス
リリースの仮訳は [24 頁参照](#)



WG 242 報告書の刊行時の本部プレス
リリースの仮訳は [25 頁参照](#)

近日発刊

以下の報告書は、2026 年 7 月に発刊予定です。

- PIANC WG 171(海港委): 水路・港湾設計のための船舶シミュレーション(Ship Handling Simulation Dedicated to Channel and Harbour Design)
- PIANC WG 243(海港委): コンテナターミナル舗装の持続可能性 -設計から供用終了まで (Sustainability of Container Terminal Pavements – From Design to End-of-Life)

新設の PIANC WG への応募

新たに内陸水路委(InCom)の2つのWGが設置されます。ご希望の方は、2026年7月31日までに各国部会、または自国に部会がない場合は info@pianc.org にご連絡ください。



WG 272 内陸水路を利用する船隊の脱炭素化



WG 273 内陸水路の維持浚渫量の最適化

新たに環境委(EnviCom)のWGが設置されます。ご希望の方は、2026年8月31日までに各国部会、または自国に部会がない場合は info@pianc.org にご連絡ください。



WG 274 持続可能な水上交通インフラにおける(浚渫土の)薄層覆土(敷設)の実践ガイド

PIANC プラチナパートナーからのニュース

Trelleborg Marine & Infrastructure 社 PIANC 英国・ハル 2026 開催の「Navigation to Net Zero」を振り返る

Trelleborg Marine & Infrastructure 社は、2026年5月11日から12日にかけて英国・ハルで開催された「Navigation to Net Zero」会合に参加しました。本イベントには、海上輸送および港湾インフラ分野のステークホルダーが一堂に会し、より持続可能な水上交通と、港湾・水上交通システムに向けた取り組みについて検討が行われました。

この会合期間中、弊社の代表である Mike Howie 氏、Mark Fowler 氏及び Alex Kondratiev 氏は、次世代の接岸・係留ソリューションや船舶用フェンダーに対して進化する要求条件につ

いて、業界の同業者らと意見交換を行いました。



議論の焦点は、大型船舶の増加、代替燃料の導入及び、一層厳格化する排出ガス規制目標に対応するため、船舶用フェンダーシステムや係留技術がどのように適応していくかに当てられました。

会合2日目は、地域販売マネージャーのMike Howie氏が「自動係留とネットゼロ実現への貢献(Automated Mooring and How It Helps Work Toward Net Zero)」の演題で技術プレゼンテーションを実施しました。プレゼンテーションでは、自動係留システムが脱炭素化の取り組みをどのように支援するかを考察し、バース効率の向上、船舶ターンアラウンド時間の短縮、港湾運営面の予測可能性の向上などの可能性についても言及しました。

本会合では、業界のネットゼロへの進展をサポートするため、知見共有と技術進化が果たす役割が強調されました。

[Alexandra Yang](#)

Trelleborg Marina & Infrastructure

ATPyC (PIANC スペイン) がマドリードで 2026 年総会を開催 ShibataFenderTeam(SFT)社が発表

Asociación Técnica de Puertos y Costas(ATPyC, スペイン港湾・海岸技術協会, PIANC スペイン部会)は、6 月 18 日、マドリードの Puertos del Estado 本部にて 2026 年総会を開催しました。本イベントには、PIANC MarCom の幾つかの WG に参画する関係者が一堂に会し、港湾および海岸インフラに関する最新の知見を交換しました。

プログラムの一環で、弊社の Eduardo Rodero 氏(PIANC WG 211 委員であり、WG 報告書の章別執筆リーダー)が「PIANC 防舷材システム・ガイドライン」について発表を行い、港湾プロジェクトにおける実施例や、特定の運用条件や現場条件に合わせるための推奨事項の適用について説明しました。

本イベントは、業界専門家と PIANC 関係者の交流の絶好の機会でした。ATPyC の企業パートナーとして、SFT グループでは、こうしたイベントへの参加、業界内での技術知識の継続的な交流に自社の経験を活かせることを大変意義深く考えています。

[Angels Blasco](#)

Junior Marketing Manager ShibataFenderTeam



姉妹機関・団体からのニュース

IADC の「浚渫・埋立セミナー」をバリ島で開催予定

2026 年 11 月 23 日から 26 日にかけて、IADC(International Association of Dredging Companies)の浚渫・埋立セミナーが、バリ島にて開催されます。本セミナーは、世界で最も重要な水上交通インフラ産業の一つについて、深い知識の獲得という絶好の機会を提供します。浚渫プロジェ



クトの成功は、洞察力、協力体制、そして技術課題に対する明確な理解から始まります。この特別な IADC の 4 日間のセミナーでは、業界専門家とセミナー出席者が一堂に会し、実践的なセミナー環境が提供されます。今回のセミナーでは、現時点では、参加費の大幅な割引を利用可能です。

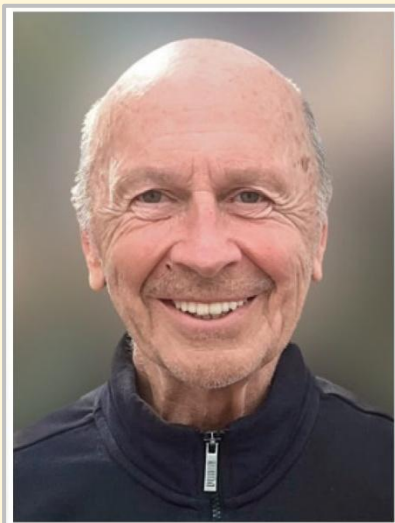
[追加情報はこちら・・・](#)

[Ria van Leeuwen](#)

IADC

訃報

Reinhard Pfliegl 氏(1944-2026)



PIANC オーストリア部会、InCom(内陸水路委員会)、及び PIANC Smart Rivers ファミリーは、2026 年 5 月 15 日に 82 歳で逝去された Reinhard Pfliegl 博士(Dr. Reinhard Pfliegl)の訃報に接し、深い哀悼の意を表します。同氏は、オーストリアの水路管理会社「viadonau」の創設者の一人であり、技術部門ディレクターを務められました。また、同時に PIANC オーストリア部会の事務局長や InCom(内陸水路委)委員も歴任されました。

昨年逝去された Otto Schwetz 氏、並びに元ピッツバーグ港湾局長の Jim McCarville 氏とともに、Reinhard Pfliegl 博士は国際会議「Smart Rivers」の会合の形式を創り上げました。この会議は、2009 年に PIANC へ組み込まれて以降、着実にその規模を拡大し、世界的な成功へとつながっています。

博士は内陸水路に対して並々ならぬ情熱を注ぎ、芯からの先駆者(イノベーター)でした。彼は「河川情報サービス(River Information Services, RIS)」の概念の提唱者の一人であり、「RIS に関する PIANC 常設 WG」にも深く関わりました。また、内陸水路輸送における主要業績評価指標(KPI)を策定した InCom WG III を主導しました。

プライベートでは、芸術やクラシック音楽をこよなく愛し、釣りを趣味とされていました。ご遺族には、3 人のお嬢さま、3 人のお孫さま、ご兄弟お一人が残されています。多くの人々が、彼を「聡明かつエネルギーに満ち溢れ、そして温厚な人物」として、多くの方々にとっての良き友人、そしてメンターとして記憶し続けるでしょう。

[Jürgen Trögl](#)

PIANC オーストリア事務局

以下は PIANC のプラチナパートナーです：



ソーシャルメディアでPIANCをフォローしてください：



ニュースレターのご購読をご希望ですか？ メール設定は [こちらから](#)

PIANC 公式サイト：<https://www.pianc.org/>

PIANC 会員になるには（右記, 日本部会へご連絡を） info@pianc-jp.org

<https://www.pianc.org/join-pianc/>

PIANC 自然との協働・共生賞 (Working with Nature (WnN) Award)

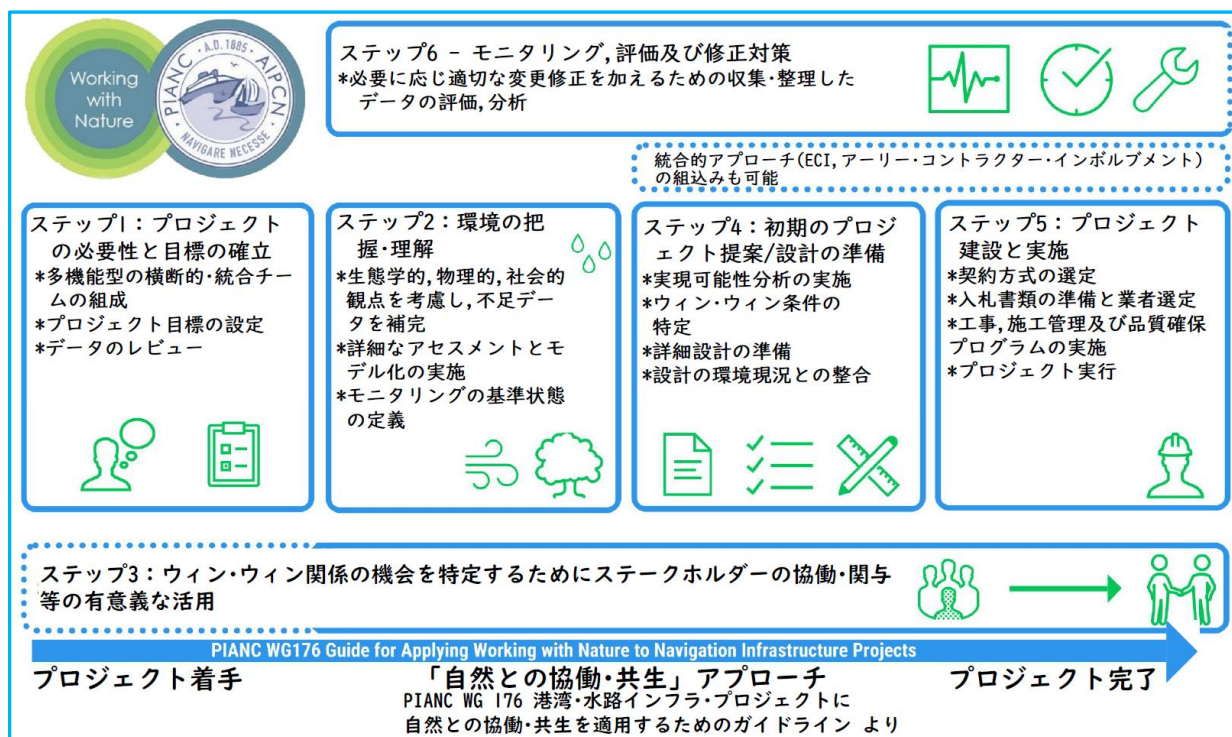
「自然との協働・共生」は、持続可能な港湾・水路インフラプロジェクトにおける積極的かつ統合的アプローチを推進するPIANCの国際的イニシアティブです。2008年以降、世界中で「自然との協働・共生」の理念を採り入れた数多くの港湾・水路インフラプロジェクトの開発がされてきました。PIANCはこうしたプロジェクトを表彰、認定証を授与することでその取組みを称えたいと考えています。



WwNのフレームワーク(PIANC WG176 報告書第4章(無償・公開部分)より抜粋)

WwNでは、港湾・水路の開発、拡張、成長に係るプロジェクト目標の達成のため、設計段階にてサイト固有の生態系特性の考慮を推奨しています。理想的には、WwNでは設計着手前からのプロジェクト目標の策定への組み込みを含んだ完全統合されたアプローチを必要とします。WwNはプロジェクトのほぼ全段階において実施可能ですが、構想・設計・実施の初期段階にて導入することが環境に好影響をもたらす機会として有望です。設計プロセスの後期段階でのWwNの概念の導入はより大きな労力を必要とし、プロジェクト着手時ほどの効果は期待できない場合があります。

2011年のPIANCポジションペーパーで確立したアプローチと、WG報告書によりプロジェクトのライフサイクルは、下図のステップで構成されます。



自然との協働・共生賞(2019-2024 期間)受賞者(PIANC 本部ウェブサイト発表資料より抜粋)

- 1 位: 浚渫土の有効活用と生態系ツールによる生息地の回復(Recovery of Habitats Beneficial Use of Dredged Materials and Bio-tools), Huelva 港湾管理者, スペイン
- 2 位: ハンコック郡・干潟生息域海岸とパール川維持浚渫(Hancock County Marsh Living Shoreline and Pearl River Maintenance Dredging), Anchor QEA Inc. 社, 米国
- 3 位: マデイラ川航行改善計画調査(Madeira River Navigation Improvement Planning Study), 米国陸軍工兵隊・ブラジル

アフリカにおける PIANC の存在感を高めるための実り多きウェビナー開催

アフリカ大陸全域における PIANC プロモーションと会員組織拡大のための「アフリカ・イニシアティブ」の一環として、国際協力委員会(CoCom)は若手技術者委員会(YP-Com)と連携し、最近の WG 報告書に基づく一連のウェビナーを成功裏に開催しました。これらのウェビナーでは、各 WG 議長による発表が行われ、アフリカ地域の専門家が参加したパネルディスカッションで締めくくられました。

この取り組みは、海外の幅広い聴衆にアプローチするもので、PIANC 活動や技術的・専門的知見への意識を高める上で、非常に大きな成功を収めました。また、5 月開催の直近のウェビナーの中で、最近公開された PIANC のコーポレートビデオも紹介され、参加聴衆からも非常に好評でした。

これまで、1 年足らずの間に計 5 回のウェビナーが開催されました。最初の 2 回のウェビナーは南アフリカ土木学会(SAICE: the South African Institution of Civil Engineering)の後援で開催され、残りの 3 回は PIANC アフリカが独自に実施したものです。

一連のウェビナーは、大きな関心と聴衆を集めました：

- 全ウェビナーを通じたページビュー総数：3,287
- 登録者総数：1,272
- 参加者総数：734

このイニシアティブは、国際的に幅広く聴衆を集めました：

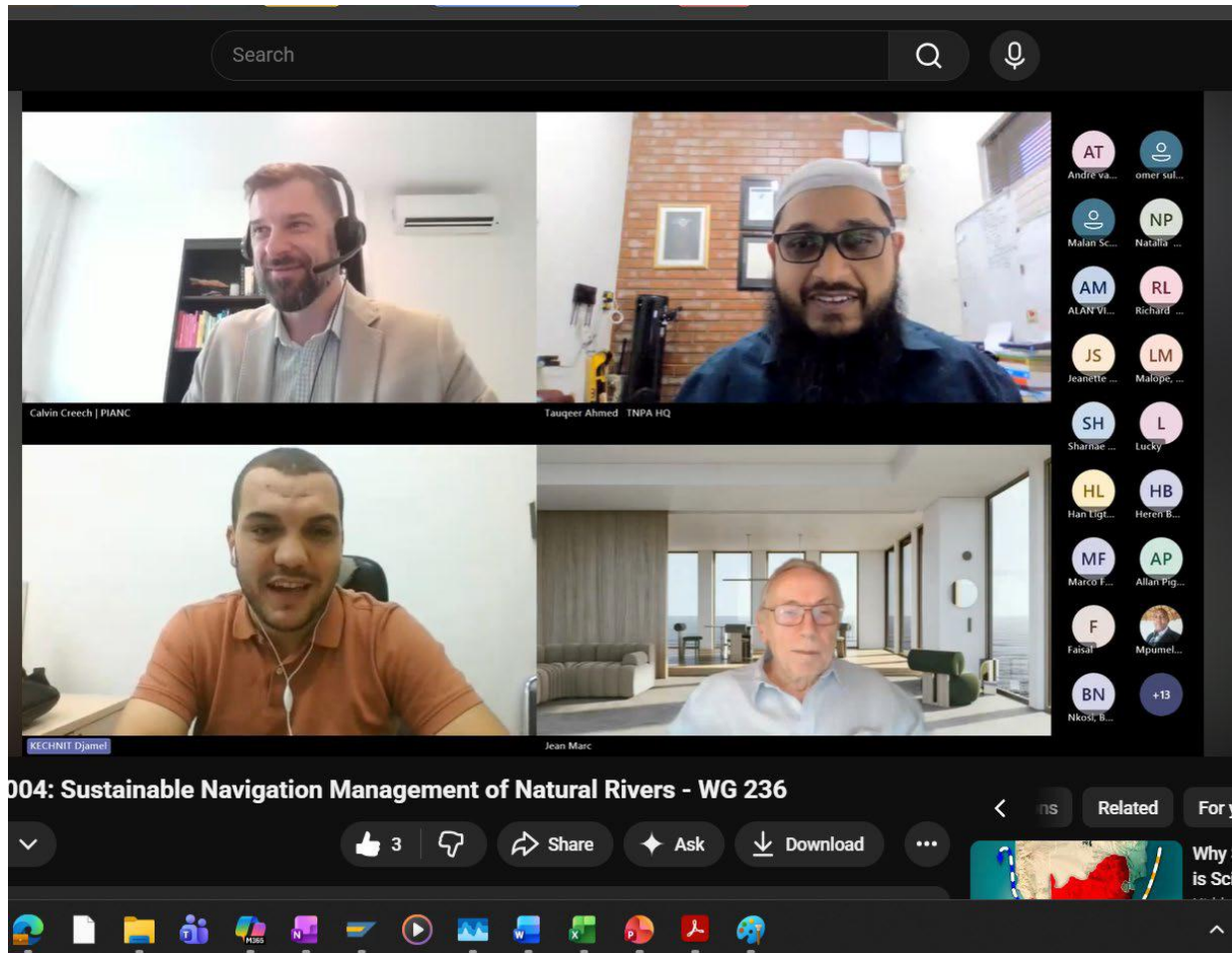
- 590 名が少なくとも 1 つのウェビナーに登録し、そのうち 144 名が複数に参加しました。
- 最終の第 5 回ウェビナーにおいても、71 名の新規登録者がありました。
- 参加者は世界の 66 カ国(うちアフリカ 24 カ国)から集まりました。

登録参加者数が多かった国は以下のとおりです：

1. 南アフリカ- 229 名 (38.5%)
2. モロッコ- 30 名 (5.1%)
3. エジプト- 24 名 (4.0%)
4. イギリス- 24 名 (4.0%)
5. ナイジェリア- 22 名 (3.7%)
6. レソト- 20 名 (3.4%)
7. オランダ- 16 名 (2.7%)
8. インド- 13 名 (2.2%)
9. ボツワナ- 12 名 (2.0%)
10. カンボジア- 11 名 (1.9%)

今回のプログラムの励みとしてよい結果としては、既に PIANC 会員であった参加者は約 20% であり、PIANC コミュニティの積極的な関与(があったこと)が示されました。

国際協力委員会(CoCom)は、これら一連のウェビナーの企画から運営に尽力していただいたアフリカチーム、並びに全ての関係者の皆さまに祝意を表します。今回のイニシアティブは、PIANC 内の強固な連携が、対象国との関係構築、能力開発、知見・知識の共有をいかに成功へと導くかを示す実証となりました。同時に、アフリカ全域及びそれ以外の地域における PIANC の存在感と影響力を高めることにもつながっています。



Mohammadreza Alilahyar
CoCom 共同委員長

PIANC MarCom WG 248 -船舶への陸上給電ガイドライン(Guidelines for Onshore Power Supply (OPS) for Ships)- 最近の進捗情報

2026 年 2 月,PIANC 海港委 WG 248(MarCom WG 248)は, アテネ国立工科大学(the National Technical University of Athens: NTUA)の主催により, 船舶向け陸上電源供給(OPS)ガイドラインの策定作業を進めるため, 実り多き対面ワークショップを実施した。今回の会合では, WG 委員が一堂に会し, 集中的な議論及びドラフトの共同作成を進め, ガイドライン作成の次の段階に係る方向性を調整した。

アテネ会合での重要な成果の一つは「第7章 OPS 設置事例」に一層の重点を置くという WG 決定であった。本章において, 世界中の「既設」及び「将来(計画中)」の OPS 設置事例について, PIANC 会員, 会員港湾やプロジェクトチームに提供すべきであることに合意を得ました。実際の経験や得られた教訓を共有することにより, 本ガイドラインは, 固有の船舶用の陸上電源の整備プロジェクトを進める港湾に対し有用な情報を提供できる。また, WG 248 では, 関連する OPS プロジェクトやケーススタディを有している PIANC 会員や港湾からの情報提供・寄稿を歓迎している。ご関心をお持ちのご寄稿提供は, WG 248 議長までご連絡ください。



←写真, 左から 2 人目が
白石 WG248
日本委員

今後は, WG 248 では 2026 年 8 月後半にケルンとロッテルダムにて会合を持ち, ガイドライン策定を進めていく予定です。同 WG では, 今年後半にはレビュー用のドラフトの提示を目指しており, 水上交通・海事セクターに対して, 実用的かつ世界的に有用なリソース提供するという重要な一歩となります。

この WG 248 及びそのイニシアティブについての詳細情報については, WG 248 の [TOR\(業務実施範囲\)](#)をダウンロードしてください。

[Fauzan Zulkhepli](#)

MarCom WG 248 議長

(Email: fzulkhepli@portauthoritiesnsw.com.au, telephone: +61 417 278 386)

PIANC 本部長及び事務総長の中国訪問の報告 - 要約版^(注)(仮訳) -

(注)PIANC 中国部会の捕捉記事(英文版)は 23 頁あるため、PIANC-Japan 事務局が要約した版を仮訳

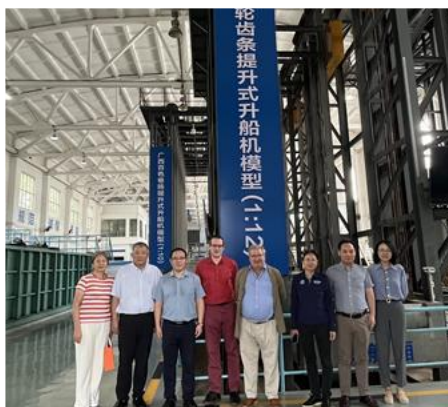
I. 全体行程

日付	訪問都市	プログラム
2026.6.1~2	南京 (Nanjing)	● NHRI(南京水理研究所)訪問 ● Hohai University(河海大学)訪問
2026.6.2~3	天津 (Tianjin)	● TIWTE(交通運輸部 天津水運工程科学研究院)訪問 ● CCCC(中国交建)との会談 ● 第 10 回 WTC(世界交通会議)出席 ● 第 4 回 TISIE(Tianjin International Shipping Industry Expo)出席
2026.6.4~5	北京 (Beijing)	● WTI(交通運輸部 水運科学研究院)訪問 ● 交通運輸部 表敬訪問 ● 北京行政学院内 マテオ・リッチ(Matteo Ricci)墓所訪問

PIANC 本部長・事務総長の滞在中、Zhang Qiaomei 氏(China Water Transport Construction Association, 中国水運建設協会 事務局長)と Cai Chuansheng 氏(Executive General Manager of the Overseas Business Department of CCCC, CCCC 海外事業部門代表総経理)がフルアテンド。

II. NHRI(Nanjing Hydraulic Research Institute, 南京水理研究所)訪問・会議

- NHRI 側: NHRI Vice President(Li Jun 氏)の Tiexinqiao 実験場等の案内
NHRI President(Dai Jiqun 氏)も加わった会議
- 長年の協力関係の振り返り: 船舶用リフト・閘門建設技術, 内陸水路計画, 国際標準の策定と学術的会議の開催など実り多き成果
- 今後の協力の重点・優先事項: 水路構造物における技術的なブレークスルー, 人材育成, 水上交通インフラの容量・能力拡大と改良更新, 水運のスマート化・低炭素化, 国際人材の育成



←実験場でのグループ写真

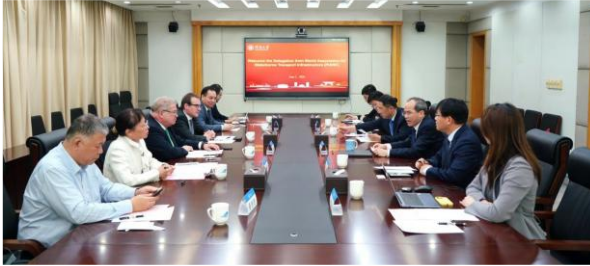


↑NHRI での会議

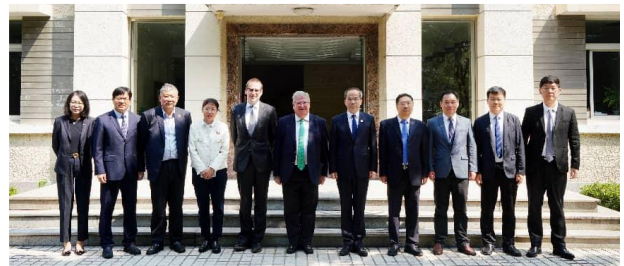
III. Hohai University(河海大学)訪問・会議

- 大学側は President(Zheng Jinhai 氏)以下が対応
- 長年の 2 者間の歴史の振り返り: 1983 年の第 1 回 COPEDEC への中国代表団の参加から始まり, 同大学の多くの教員等がこの間, PIANC 技術 WG に参加した点などの説明
- 学長(Zheng Jinhai 氏): PIANC との協力関係の深化, 同大学の専門知識・知見を活用した世界中の水上交通インフラの質の向上, 持続可能な開発や容量・能力拡大への協力関係の発展に言及。

- PIANC 会長：PIANC は世界的な水上交通ガバナンスと技術標準の向上を目指し、技術者・研究機関・大学・企業等からなる協力ネットワーク構築にコミット。かねてより、大学との連携モデルを模索しており、今回の訪問は戦略的な方向性として重要な節目となると言及。
- 双方による合意内容は以下のとおり：
 1. 国際的視野の拡大のため、河海大学の教員・学生の PIANC 委員会や技術 WG への参加を奨励
 2. 水上交通分野における国際人材の育成レベルを向上させるための専門研修プログラムの共同開発
 3. PIANC 中国部会は、PIANC の学術イベントの中国での開催に尽力



河海大学での会議



同大学でのグループ写真

IV. TIWTE (Tianjin Research Institute for Water Transport Engineering, 交通運輸部天津水運工程科学研究所)訪問・会議

- TIWTE President(Dai Mingxin 氏)以下が対応
- TIWTE 側：国の旗艦的な研究組織として、長年にわたる両者協力を通じ、PIANC 委員会等への専門家の派遣、国際的なガイドライン策定や国際的な技術交流に寄与との説明
- PIANC 側：PIANC の組織体系、使命、目標、運営などを概説。あわせて、WG を通じた国際的な研究・技術リソースの調整の仕組みの説明。
- 双方の合意事項：
 - ・水上交通インフラの 3 つの発展の方向性；グリーン化、スマート化、安全性に焦点を当てる
 - ・気候変動への対応、AI への適応などを含む最優先課題に取り組むための技術的な共同作業や国際ガイドラインの策定や技術レポート作成を実施



TIWTE でのグループ写真



同所での会議

V. CCCC (China Communications Construction Company Limited, 中国交建)との会談

- General Manager(GM) of CCCC, Chairman of CWTCA (Dai Mingxin 氏)との会談
 - ※第 10 回世界交通会議期間中の面談
- GM(総経理)：中国初の PIANC プラチナ会員として PIANC の進める技術革新などに深く関与。PIANC と協力し、中国のエンジニアリングの実践事例を世界に適用可能な国際標準として転換させるために、CCCC の専門知識による貢献の用意ありと表明。
- PIANC 側：現在、グリーン化・低炭素化の開発、スマート化・デジタル化、強靱化に関する最先端の調査研究に注力。CCCC の世界的にベンチマークとなるプロジェクト事例や実践的な経験も

深く取り込み、国際的な業界規格の洗練化、成果の商用化の加速、質の高い持続可能なグリーン開発の推進を期待と表明。



PIANC 会長と CCCC 総経理の会談



会談参加者

VI. 第10回世界交通會議 (10th World Transport Convention)出席

- 6月3日開会(於 天津)。エステバン PIANC 会長の基調講演(世界の水上交通の直面する課題と共同行動(Global Water Transport Challenges and Collective Action))
- 午後のテーマ別フォーラム^(注)「持続可能なグリーン水上交通(Sustainable Green Water Transport)」^(注)PIANC と NHRI(南京水理研究所)の共催
 - ・開会挨拶:エステバンPIANC 会長, 中国交通運輸部・水上交通局副局长(Lin Xiaoping 氏), Dai Jiquan NHRI 所長
 - ・カペレン事務総長による講演「世界の持続可能な水上交通の動向と PIANC の役割・使命(Global Sustainable Water Transport Trends and PIANC's Role & Mandate)」



PIANC 会長の基調講演



テーマ別フォーラム・グループ写真



同左・事務総長講演

VII. 「AI と水上交通」セミナー(AI + Waterborne Transport Seminar)出席

- 6月3日開幕の天津にて開幕の第4回TISIE(Tianjin International Shipping Industry Expo)にて開催の同セミナーでカペレンPIANC事務総長が講演
- 演題は「水上交通システムにおけるAI導入,PIANC内における実装上の配慮事項(AI in Water-borne Transport System, Implementation Consideration within PIANC)」
- 同日、エステバン会長が地元メディアのインタビューに応じ、グリーン港湾開発における天津との協力関係の深化について言及。



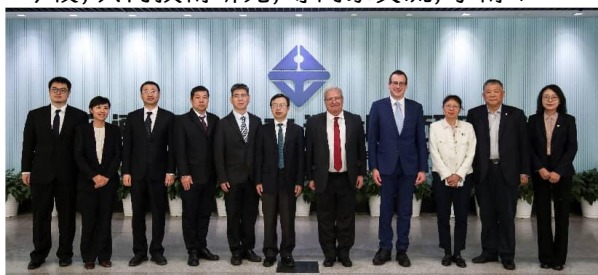
←カペレン事務
総長の講演

エステバン会長
インタビュー →



VIII. WTI(China Waterborne Transport Research Institute, 交通運輸部 水運科学研究院)訪問・会議

- WTI President(Liu Peng 氏)以下による会議。ISO/TC 8/SC 27 分科委員会スタッフも同席
- WTI: 本研究院は中国最大規模の総合的な水運研究機関であり、国際規格の策定・改訂にも深く関与との説明。上記 ISO 分科委員会の事務局機関でもある WTI として、PIANC が同分科委のリエゾン機関に認定されたことに祝意を表明。同分科委は ISO 初の港湾・ターミナルの標準化に特化する技術委員会であり、深化する PIANC との協力基盤であるとの説明。
- PIANC: 当協会は、港湾・水路の建設、グリーン水運、インフラ整備・運営にまたがる成熟した(信頼性高い)技術ガイドラインと実践的な経験を有し、世界の水上交通に広範な影響力がある。
- 双方で以下の点の認識一致
 - ・ISO/TC 8/SC 27 プラットフォームを活用、今後、定期的かつ実践的な協力メカニズムを確立。
 - ・リエゾン機関として、PIANC は分科委の標準化に係る調査やセミナーへの上級専門家を推薦、会員ネットワーク活用による港湾・ターミナルの国際標準の展開と普及を支援。
 - ・分科委は、PIANC の先進的な技術成果や実践経験を組み込みながら、関係用語集、自動化技術、低炭素・省エネ、施設のライフサイクル管理等の優先分野における全面的な協力。
 - ・今後、共同技術研究、専門家交流、学術イベントの共催等を推進。



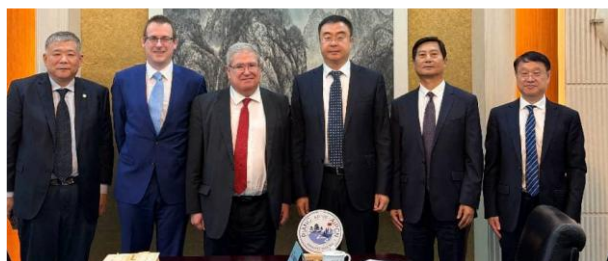
WTI でのグループ写真



WTI での会議

IX. 交通運輸部 表敬訪問

- 6月4日、交通運輸部を表敬訪問。
Wang Gang 副大臣と会談。交通運輸部・科学技術局(Department of Science & Technology), 及びCWTC(China Water Transport Construction Association, 中国水運建設協会), CCCC(中国交建)代表も同席。
- 副大臣: 政府は「交通強国」発展を推進し、PIANC との協力・交流を重視。PIANC 中国部会の下、国内業界、研究機関、専門家がPIANC 活動に幅広く参加。PIANC 参加の推奨、国際会議・学術イベントの主催を推進。
- PIANC 側: PIANC の優先課題の概説と実務的な二者間協力の深化に言及。
- CWTC: PIANC 中国部会の事務局の立場で、これまで100名以上の専門家がPIANC の委員会・WG に参画。国内各地でPIANC 国際会議を開催との説明。
- CCCC: プラチナメンバーとして、専門家の PIANC 参画の支援、PIANC 会議で多数の論文発表。
- 二者間協力の基盤の強化で合意。



交通運輸部でのグループ写真



交通運輸部での会議

PIANC Japan 第 54 回総会、第 58 回理事会及び PIANC WG(WG164, WG213)活動報告会の開催

2026 年 6 月 16 日、東京にて PIANC Japan 第 54 回通常総会及び第 58 回理事会が成功裏に開催された。

これら一連の会合において、以下の主要事項が承認された：

- 2025 年度活動報告(会務報告)及び同年度決算報告(監査報告)
- 2026 年度事業計画及び同年度収支予算(2027 年度開催の「拡大版 PIANC アジアセミナー - PIANC Japan 50 周年記念セミナー- "Expanded PIANC Asian Seminar -PIANC Japan 50th Anniversary Commemorative Seminar-"の準備含む)

通常総会の冒頭に、栗山 PIANC-Japan 会長からの挨拶に続いて、PIANC 本部資格会員(Qualifying Member)の代表として、金丸氏と的野氏からご挨拶をいただいた。



栗山善昭 PIANC-Japan 会長



金丸佳介氏
国土交通省港湾局国際企画室長



的野博行氏
水産庁漁港漁場整備部事業課長



第 54 回通常総会の会場

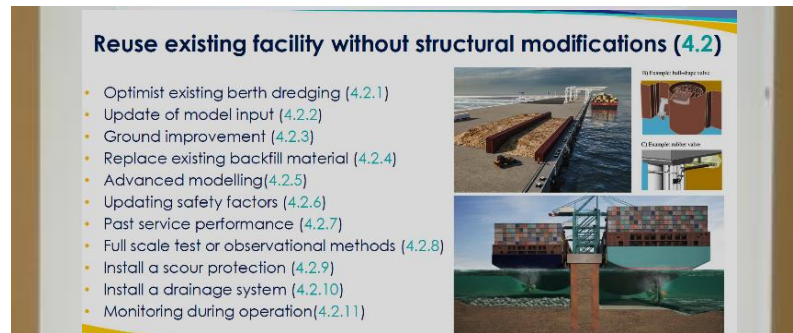
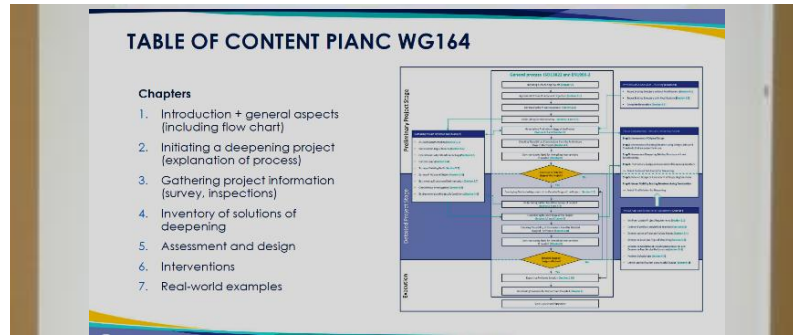
通常総会に引き続き、PIANC の以下の技術 WG の取り組みや成果に対する参加者の一層の理解拡大のための「PIANC 技術 WG 報告会」を開催した。

- 海港委(MarCom) WG 164:増深による港湾バース改良(Upgrade of Port Berths by Increasing Dredged Depth)
- 海港委(MarCom) WG 213: 多目的海上ターミナル設計ガイドライン(Design Guideline for Marine Multipurpose Terminals)

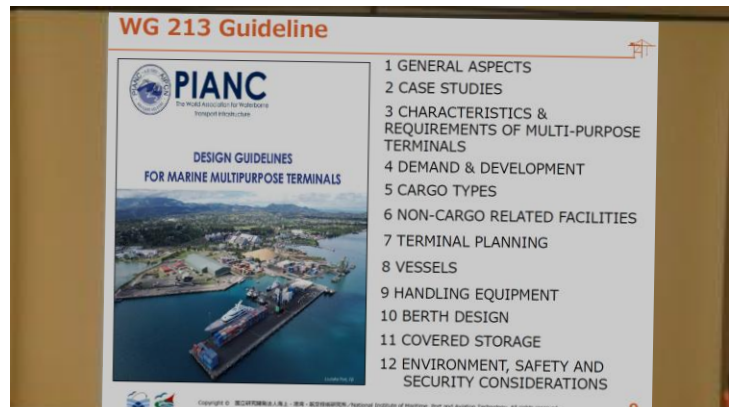
松村聡氏(WG 164)及び安部智久氏(WG 213)により、各々のWG報告書の目的、内容構成、作成プロセス等に係る講演が行われた。



松村聡氏
(WG 164 委員, (国研)港湾空港技術研究所)



安部智久氏
(WG 213 委員, (国研)港湾空港技術研究所)

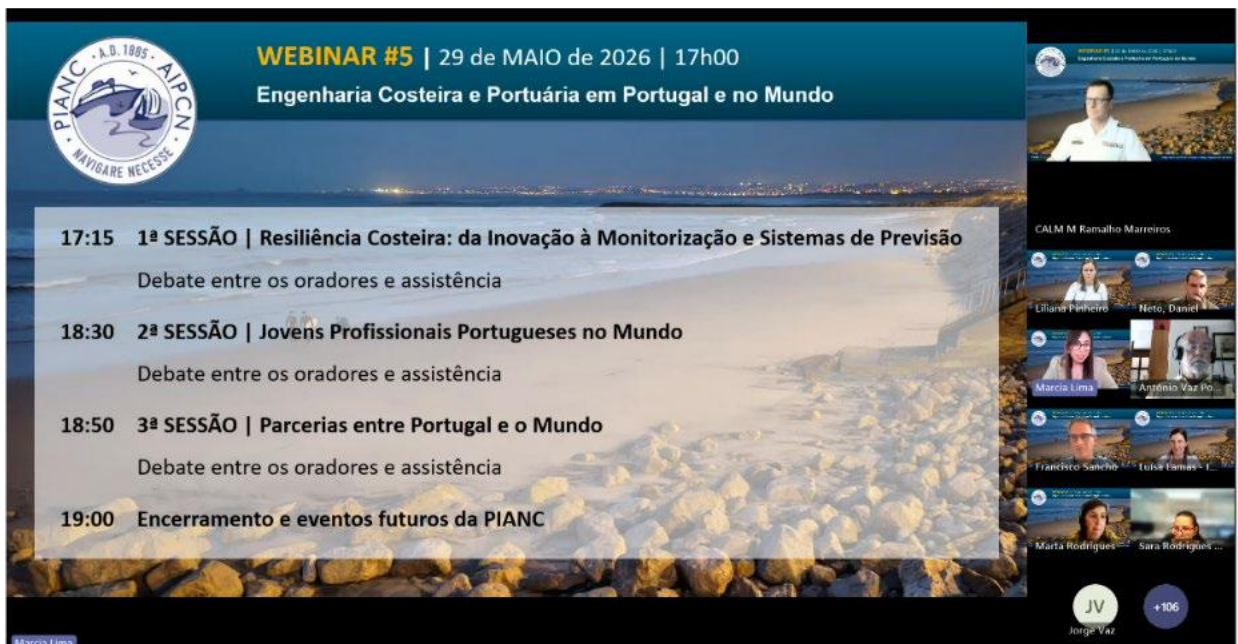


PIANC 技術 WG 報告会の会場

PIANC 若手技術者委(YP-Com)ポルトガル 第5回ウェビナー -海岸の強靱化: イノベーションからモニタリング・予測システムまで(Coastal Resilience: From Innovation to Monitoring and Forecasting Systems)-

2026年5月29日,PIANC ポルトガル若手技術者(YP)グループは,第5回目となる「ポルトガル及び世界における海岸・港湾工学ウェビナー」をポルトガル語で開催した。このオンライン・イベントには,数カ国から約250名の登録者が参加しました。本ウェビナーでは,以下のテーマに関するプレゼンテーションが行われた。

*AI 及び高周波レーダーデータに基づく海流予測, *衛星観測を用いる海岸線モニタリング,
*海岸災害の早期警戒システム, *海洋鋼矢板の構造物の健全度モニタリング, *海岸域の予測及び意思決定を支援するデジタルツール



The screenshot shows the webinar interface. On the left, a slide titled 'WEBINAR #5 | 29 de MAIO de 2026 | 17h00' and 'Engenharia Costeira e Portuária em Portugal e no Mundo'. The slide lists the agenda: 17:15 1ª SESSÃO | Resiliência Costeira: da Inovação à Monitorização e Sistemas de Previsão; 18:30 2ª SESSÃO | Jovens Profissionais Portugueses no Mundo; 18:50 3ª SESSÃO | Parcerias entre Portugal e o Mundo; 19:00 Encerramento e eventos futuros da PIANC. On the right, a vertical strip shows a grid of participants' video feeds. At the bottom right, there are icons for 'JV' and '+106'.

本ウェビナーは,ポルトガル水路機関(Portuguese Hydrographic Institute)の協力の下,ポルトガル海軍記念日の記念行事の一環として開催された。2時間に及ぶウェビナーの進行は,Márcia Lima氏(PIANC ポルトガル YP-Com),Francisco Sancho氏(PIANC ポルトガル首席代表),J.P. Ramalho Marreiros(ポ水路機関 総局長)が務めました。また,国立土木研究所(LNEC),ポルトガル地盤工学会(SPG),ポルトガル水資源協会(APRH),ポルトガル技術者協会(OERC),Aveiro大学(DECivil-UA),Lusófona 大学(CUP),CERIS 研究ユニット等の多くの科学・技術機関の後援を受けた。さらに,本活動は国連の「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年(United Nations Decade of Ocean Science for Sustainable Development (Ocean Decade))」の承認も得たもの。

この一連のウェビナーの特徴としては,世界各地で活躍するポルトガルの若手技術者(YP)に特化するセッションを設けていることであり,異なった国際的な環境下の実務経験,技術的課題,並びに将来展望を共有する機会が提供されている。また,今回の第5回ウェビナーではPIANC ブラジルからも「ブラジル沿岸の運航安全のための高度な海洋気象サービス」に関する発表があり,ポルトガル語圏の海上コミュニティ間の連携の一層の強化につながった。さらに,本イベントは,ポルトガル国内外の海岸・港湾工学の専門家,研究者,学生が一堂に会する「PIANC ポルトガル」の専門家ネットワークの強化への寄与,協調と経験の交換が促進された。

2021 年の第 1 回ウェビナー以降, 本ウェビナーシリーズには約 35 カ国からの参加者があった。今回の第 5 回ウェビナーでは, 次回 2027 年開催のウェビナーの優先テーマとして, 参加者投票により「気候変動への海岸適応: 計画, リスク管理及び強靱化(Coastal Adaptation to Climate Change: Planning, Risk Management and Resilience)」が選出されました。ウェビナー録画([こちらから視聴可能](#)), 登壇者略歴([こちらから](#)), 及び発表資料([こちらから](#))は一般公開されている。また, 皆さまは PIANC ポルトガルの「沿岸・港湾工学専門家ネットワーク」の情報ウェブサイト([こちらから](#))にもアクセスできます。

Franciso Sancho
PIANC ポルトガル首席代表

PIANC 英国委員会会合及び HR Wallingford 社技術視察

PIANC 英国では、2026 年 6 月 23 日(火)に委員会会合、技術視察及び HR Wallingford 社の見学会を開催した。

航行シミュレーション、船舶のプロペラ流からジェネレーティブ・エンジニアリングや低炭素設計ソリューションに至るまで、今回のイベントでは、港湾や水路の未来を形作る幅広いイノベーションが紹介された。



本イベントでは、以下の講演者陣が登壇した。

- **Sam Wardlaw** 氏(HR Wallingford) - 高速, 2次元, リアルタイムシミュレーション(Fast-time, 2-D and Real-Time Simulations)
- **Vincenzo Albanese** 氏(HR Wallingford) - 船舶プロペラ流の航跡の作用(Actions from vessel propeller wash)
- **Michael Rustell** 氏(Inframatic) - ジェネレーティブ・エンジニアリング(Generative Engineering)
- **Chris Symes** 氏(Jacobs) - 設計最適化と革新的な超低炭素材料の活用による炭素排出量の削減(Reducing Carbon through Design Optimisation and the use of novel Ultra-Low Carbon Materials)
- **Peter Mallin** 氏(Mott MacDonald) - 航行シミュレーションから得られた知見(Insights gained from Navigation Simulation)

講演の後、HR Wallingford 社が誇る世界トップクラスの船舶シミュレーション及び実験模型施設の見学を行った。

講演発表、質疑応答・議論、施設見学を通じて、参加者の皆さまが業界全体から得た貴重な知見や経験の共有でき、非常に活発な交流があったことは大変素晴らしいことでした。

このような大成功を収めた PIANC 英国イベントを主催していただいた HR Wallingford 社に、深く感謝申し上げます。

Nigel Bodell
PIANC UK

AMIP 創立 60 周年：将来ビジョンを見据えた過去の振り返り メキシコの港湾・海上・沿岸工学コミュニティが PIANC を通じて国際協力を強化

(注)PIANC メキシコの捕捉記事(英文版)は 5 頁あるため、PIANC-Japan 事務局が要約した版を仮訳

メキシコの PIANC 資格会員(Qualifying Member, QM)である AMIP(Asociación Mexicana de Infraestructura Portuaria, Marítima y Costera, A.C., メキシコ港湾・海上・沿岸インフラ協会)は、AMIP60 周年フォーラムを 2026 年 5 月 19 日,20 日に開催。。

○フォーラムは、メキシコシティにて開催、139 人が参加。

○開会式：海軍省(SEMAR)港湾・商業船局長、メキシコ土木学会会長、AMIP 会長など同国の技術者コミュニティの代表者が参加。



○今回のイベントは、PIANC の QM 会員としての AMIP 承認から 1 周年になる時期に実施された。PIANC QM 会員としてのスタートの 1 年間で、AMIP は主要な技術委員会(Com)への代表委員派遣など、メキシコ専門家の参加を積極的に推進、InCom WG 265(内陸水路における水工構造物の革新的な建設工法)の一員にもなっている。

○開会セッション：AMIP の過去 60 年間の成果とメキシコ港湾セクターの変遷を取り上げ、技術プログラムとして、港湾及び海上インフラの未来を形作る戦略的課題の分析を目的とする 4 つのテーマ(モジュール)別に構成。

モジュール 1 - 戦略的な計画と未来(Strategic Planning & the Future)

包括的な計画アプローチ、貿易パターンの変化への適応、技術的・環境的課題の先読み

モジュール 2 - 港湾インフラ開発(Port Infrastructure Development)

船舶大型化と物流の効率化への対応、競争力向上のためのイノベーション投資の役割

モジュール 3 - 専門エンジニアリングと強靱化(Specialised Engineering & Resilience)

気候変動適応戦略の組み込み、リスクベース計画策定による港湾・海岸施設の性能向上

モジュール 4 - 持続可能性と港湾運営(Sustainability & Port Operations)

運営効率性と環境影響の提言の両立、管理手法、環境モニタリング、経済発展と生態系保護

○PIANC - AMIP 戦略セッション：テーマ「イノベーション、テクノロジーと新世代：明日の港湾の原動力(Innovation, Technology, and New Generations: The Engine of Tomorrow's Port)」,モデレーター Fernando Bustamante 氏(PIANC メキシコ首席代表)

○「PIANC YP イニシアティブ」に関するプレゼンや、AMIP から PIANC 技術委員会や WG に参加する委員の円卓会議なども実施された。



PIANC-AMIP YP(若手技術者)メンバー



AMIP の PIANC 技術委メンバーの円卓会議

プレスリリース

2026 年 6 月 16 日

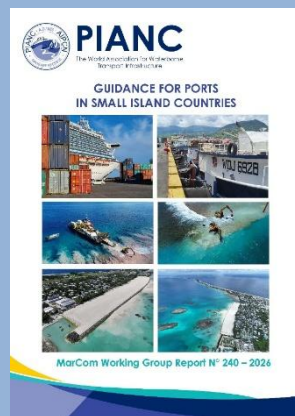
小規模島嶼国の港湾のガイダンス(Guidance for ports in small island Countries)

海港委員会(MarCom) WG 240*

価格：非会員 166 ユーロ／会員 無料 (108 頁)

<https://bit.ly/4vV6fYt>

*PIANC-Japan 事務局(注)WG 240 日本委員：元野一生氏
(一財)国際臨海開発研究センター)



国際航路協会(PIANC)は、「MarCom WG 240(2026) 小規模島嶼国の港湾のガイダンス」の発行を発表します。本報告書は、小規模島嶼国(SICs)における港湾インフラの計画、設計、建設、運営及び長期的な持続可能性をサポートするために策定し、実践的かつ包括的枠組みを提供するものです。

小規模島嶼国の港湾は、貿易や交通の結節点として、不可欠な物資やサービスへのアクセスを可能とする極めて重要な「ライフライン」としての役割を果たしています。しかしながら、こうした港湾は、次のような特有の課題に直面しています。

- 地理的な孤立性と限定的な交通接続
- 人口の少なさ及び人的能力・リソース上の制約
- 天然資源の乏しさや、貿易上の大きな不均衡
- 気候変動や自然災害に対する脆弱性
- 環境条件の脆弱性
- 開発整備や維持管理に対する財政的・制度的な不足

本 WG 240 では、PIANC のこれまでの取り組みを基礎としつつ、現在の世界的な優先課題も反映して内容更新を行い、小規模島嶼国の現実の環境に応じた指針を提供し、こうした課題に直接取り組むものです。

WG 240 報告書は、太平洋、カリブ海及び AIS(Atlantic, Indian Ocean, South China Sea)地域における幅広い経験を有する国際的かつ多分野にわたる専門家グループ(構成は下記のとおり)により作成されました。

- 小規模島嶼国の港湾管理者当局及び政府機関
- 開発銀行を含む国際金融機関
- 水上交通・海事分野コンサルタント、エンジニア、コントラクター
- 水上交通・海事業界全般にわたる民間部門のステークホルダー

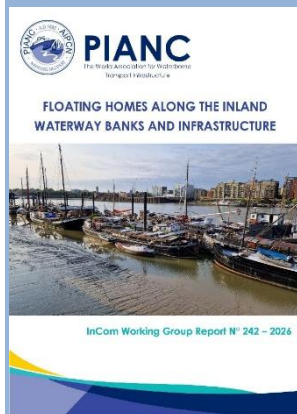
本報告書は、港湾の開発面及び運営面のライフサイクル全体にわたった体系的な指針を提供しており、その内容構成は以下のとおり：

1. 戦略的背景と地域的な考慮事項
2. 環境および気候変動に関する考慮事項
3. 計画および運営の枠組み
4. 設計、建設、および資産の維持管理
5. 持続可能性、エネルギー及び脱炭素化
6. 資金調達および開発整備モデル

WG 240 は、既存の技術基準の単なるコピーではなく、「何を考慮すべきか」について、色々な状況に適応した指針を提供し、小規模島嶼国の条件によって既存の PIANC 及び業界ガイドラインの効果的な適用を可能にしています。

プレスリリース

2026 年 6 月 17 日



内陸水路護岸・インフラ沿いの浮体式住居(Floating Homes along the Inland Waterway Banks and Infrastructure)

内陸水路委員会(InCom) WG 242

価格：非会員 182 ユーロ／会員 無料 (120 頁)

<https://bit.ly/3SJ4EqI>

ハウスボートや浮体式建築物を含む水上住宅は、世界中の内陸水路沿いで一層「目につく」ようになっていきます。住宅需要の高まり、利用可能な土地の不足、そして水辺での暮らしの魅力の向上を背景にして、こうした動きは多くの地域で勢いを増しています。同時に、こうした動向は、航行の安全性、法的枠組み、技術的な要件、環境保護に関連して重要な課題の提起につながっています。

新たに刊行された WG 242 報告書は、浮体式住居及び、それらの住居が内陸水路システムに組み入れられている状況について、包括的かつ国際的な概観状況を提供しています。広範な調査と多岐にわたるケーススタディに基づき、現時点の実情を分析し、主な課題の特定とともに、関係する管理当局、計画担当者や開発者に向けた実践的なガイダンスを提示しています。

本報告書の中核をなす原則は、浮体式住宅を許可するか否か、また、どの場所に許可するかという決定は、依然として所管当局の責任という点でし。本 WG では、住居の設置場所を指定することではなく、安全かつ持続可能な統合・同住居の組み込みを確保するために考慮すべき要因に焦点を当てている。特に、内陸水路の本来の機能である「安全かつ効率的な航行」の維持に重点が置かれている。

本報告書の主な貢献点の一つは、通常は船舶として分類されるハウスボートと、航行不可能な構造物である浮体式建築物を明確に区別している点である。この区別は、許可手続き、技術的要件、検査体制、及び長期的な管理という点に直接的な影響を及ぼすものです。

本報告書では、既存の規制面の枠組みが断片化されたものになっていて、その多くが船舶関連の法規制に基づくもので、これらは恒久的な居住用途に必ずしも適していないことを指摘しています。こうした両者の隔たり・不備に対処するため、本報告書では、立地および空間計画、許可・ガバナンス、技術的設計、航行安全、環境保護、サービス提供、維持管理、及び使用終了時の対応を網羅した体系的な一連の提言を示しています。

本報告書は、規範的な基準を策定したものではなく、柔軟なツールキットであると理解すべきです。その提言は、事例ごとの意思決定をサポートすべく意図されており、地域の状況、規制上の環境、水路の特性に合わせて適応させることができます。この点において、関係当局間の緊密な協力と、確固たるエンジニアリング上の専門知識の活用は依然として不可欠です。

本報告書は、課題と可能性の両者に言及することで、水辺開発の新たな形態としての浮体式住居への理解を深めることに寄与します。その目的は、航行、環境保護、公共の安全を損なうことのないことを確保しつつ、浮体式住宅が内陸水路に安全かつ持続可能で、適切に管理された形で組み込まれることを支援することです。

